

%

令和6年度 全国家畜衛生主任者會議資料

令和6年4月15日

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究部門

NARO

生命あるものを衛ることを目標とし、試験・研究に加えて病性鑑定、製剤の製造配布、各種講習会を通じた知識・技術の伝達等の幅広い業務を実施

試験・研究



ASF ウイルスの感染実験



体表温センサ

病性鑑定



国際重要伝染病

高病原性鳥インフルエンザ
アフリカ豚熱 (ASF)

豚熱 (CSF)

口蹄疫

伝達性海綿状脳症

その他にも数多くの一般病性鑑定を実施

製剤の製造・配布



牛疫組織培養予防疫



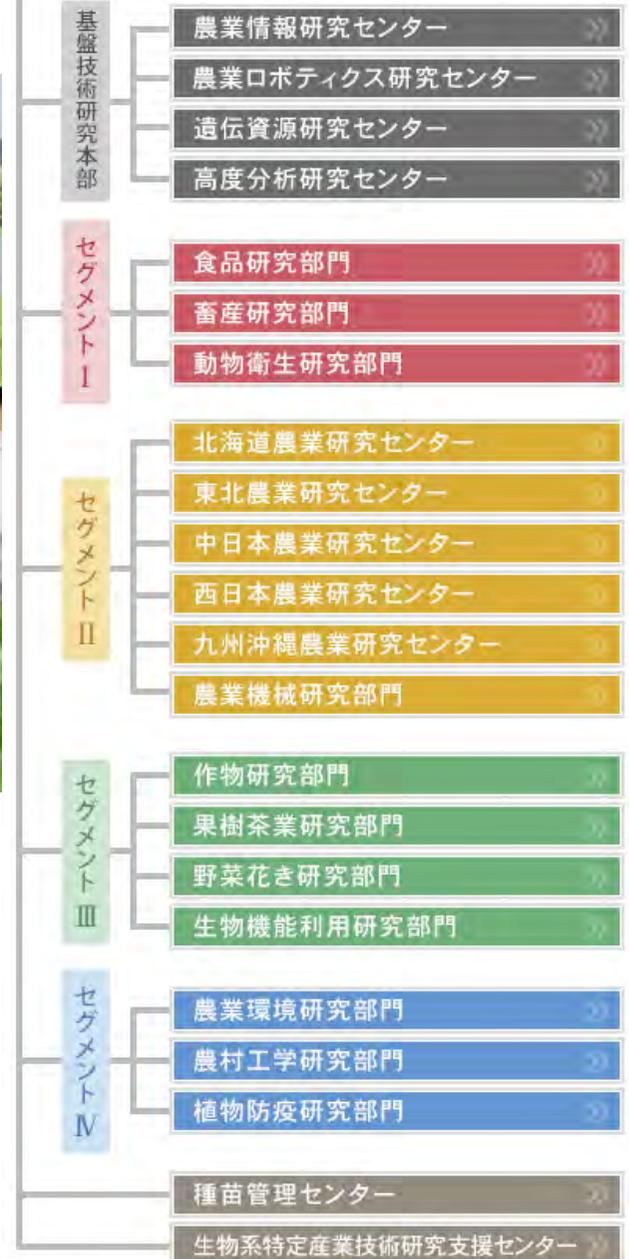
各種講習会



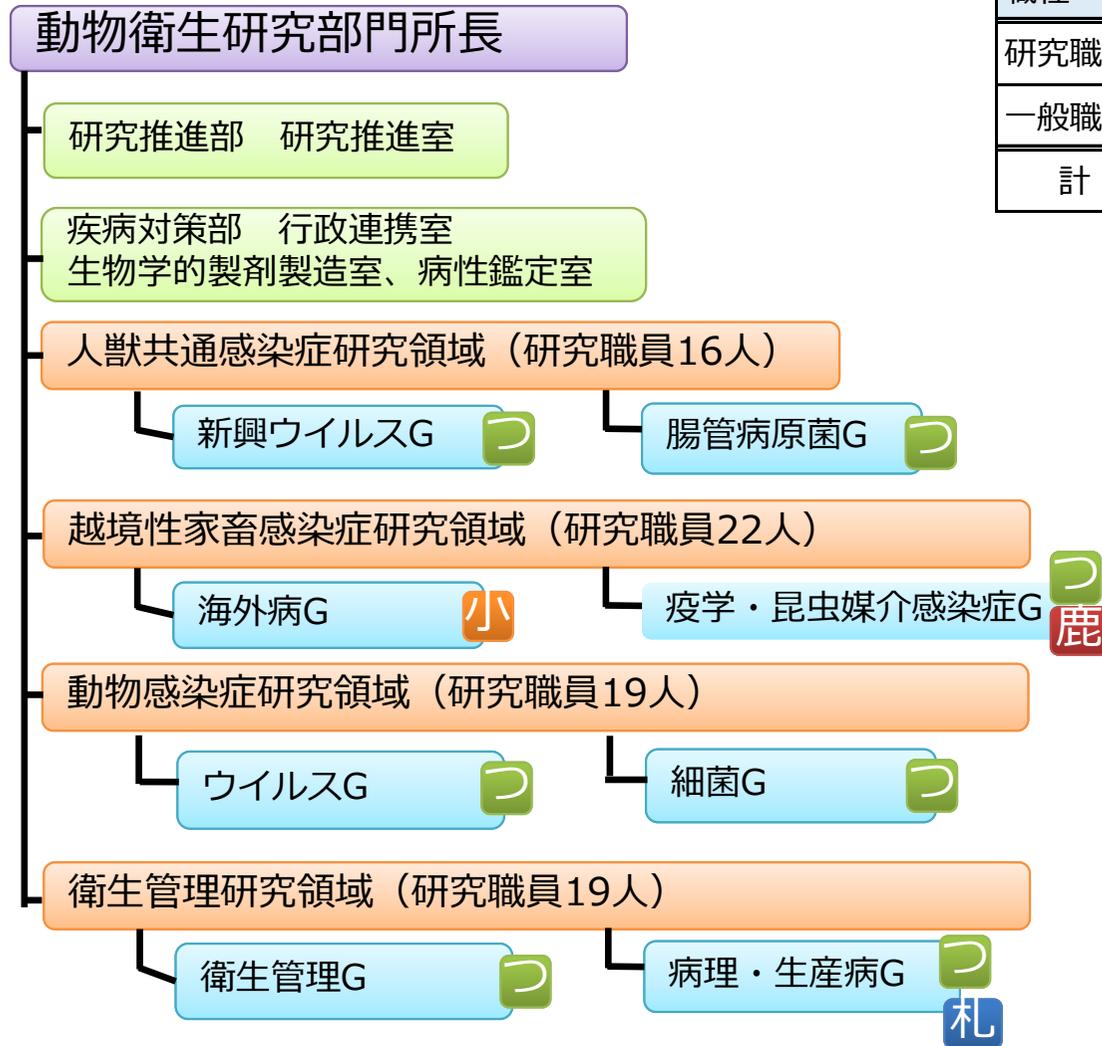


- ・ 令和5年、農商務省農事試験場設立(1893年)から130周年
- ・ 職員数 約3,200名 (正職員のみ)

本部



動物衛生研究部門の概要



所在地別職員数

2024年1月1日現在

職種	つくば	小平	札幌	鹿児島
研究職員	66	11	7	6
一般職員	19	2	1	0
計	85	13	8	6

注) 職員数は兼任を除く実数



人獣共通感染症研究領域

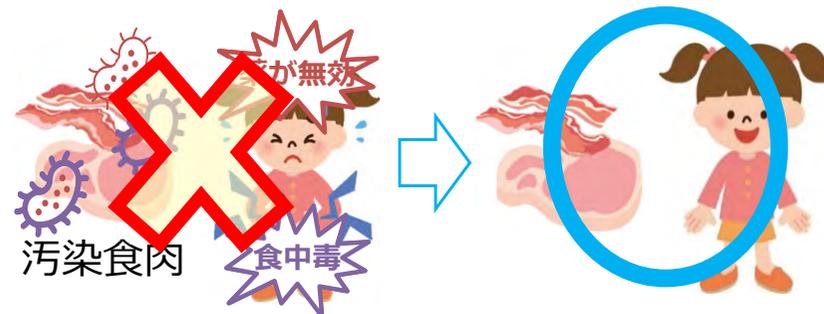
ワンヘルスアプローチによる人獣共通感染症の監視体制の構築

○新興ウイルスグループ



国内に侵入する高病原性鳥インフルエンザの研究

○腸管病原菌グループ



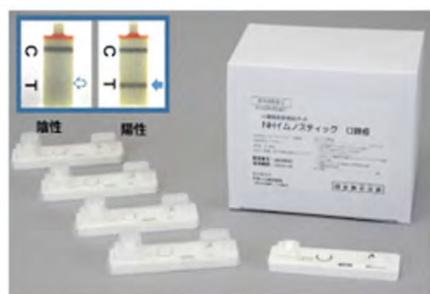
食中毒を起こす細菌の防除技術や薬剤耐性菌の解析

越境性家畜感染症研究領域

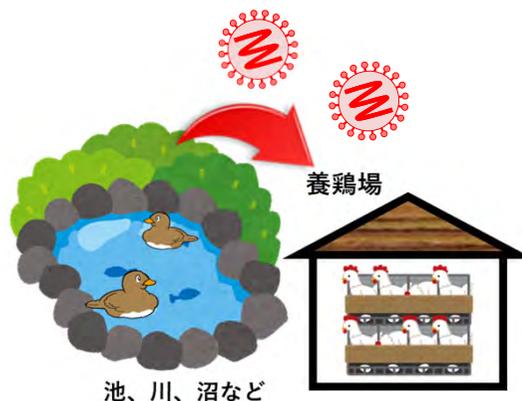
国際連携による越境性家畜感染症のまん延防止

○海外病グループ

○疫学・昆虫媒介感染症グループ



アフリカ豚熱や口蹄疫など
国際重要伝染病の研究



家畜疾病の侵入経路など疫学解析

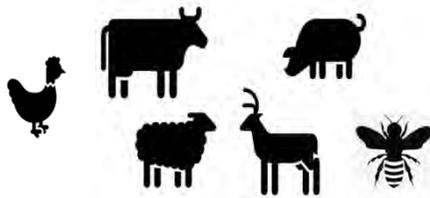


蚊やヌカカが媒介する
ウイルス感染症研究

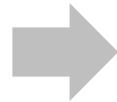
動物感染症研究領域

先端バイオ技術を応用した動物感染症の診断法及びワクチンの開発・実用化による被害低減

○ウイルスグループ、○細菌グループ



家畜疾病の流行調査と解析



新規検査法の開発



企業と連携した検査キット



新規ワクチン開発

衛生管理研究領域

データ駆動型疾病管理システムによる衛生管理の高度化と省力化

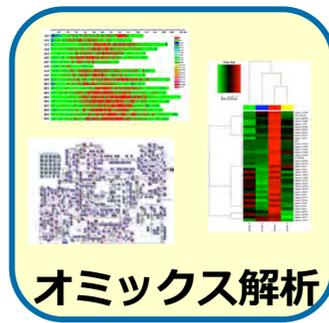
○衛生管理グループ



生体センシング



ウシ骨格検出



オミックス解析

○病理・生産病グループ

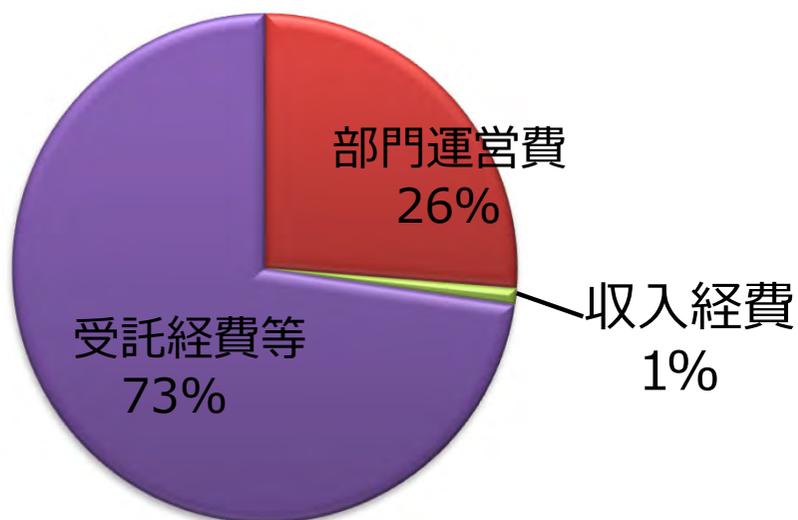


乳房炎診断・治療・ワクチン開発

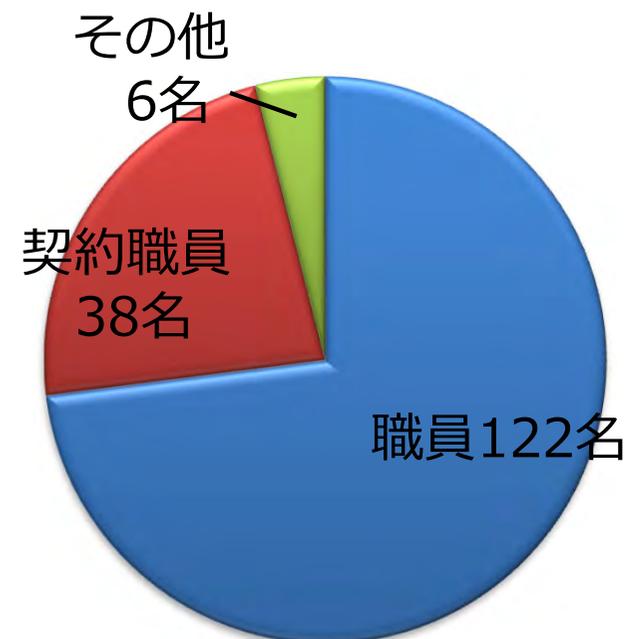
AIを用いた
病理診断
システムの開発



支出予算(人件費以外)
(令和5年度 909百万円)



職員数
(166名 令和6年1月1日現在)



- ※1.収入経費に科研費(間接経費)を含む。
- ※2.受託経費等: 受託研究、共同研究、受託調査、受託出張、補助金経費、科研費(直接経費)

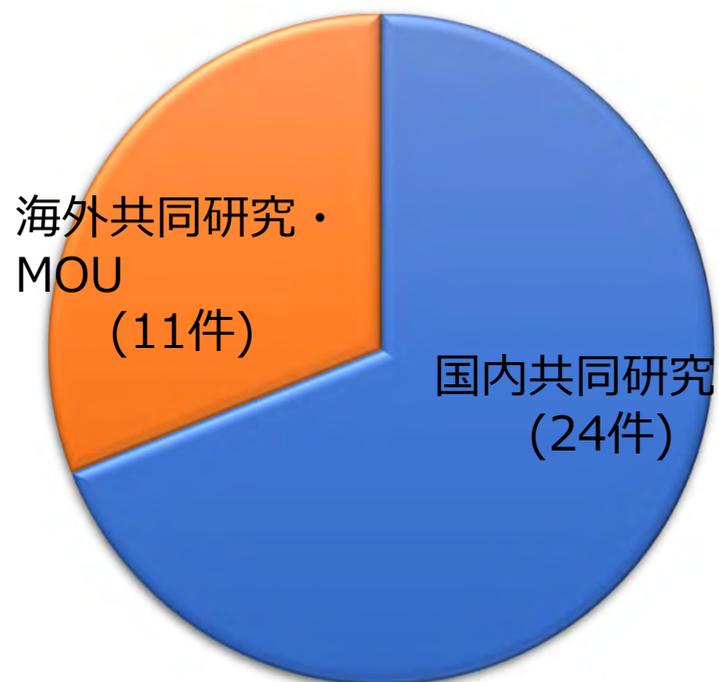
他機関との協力 連携大学院の併任教員

国立大学法人岐阜大学	2名
国立大学法人岩手大学	1名
大阪府立大学	2名

令和6年3月現在 計5名

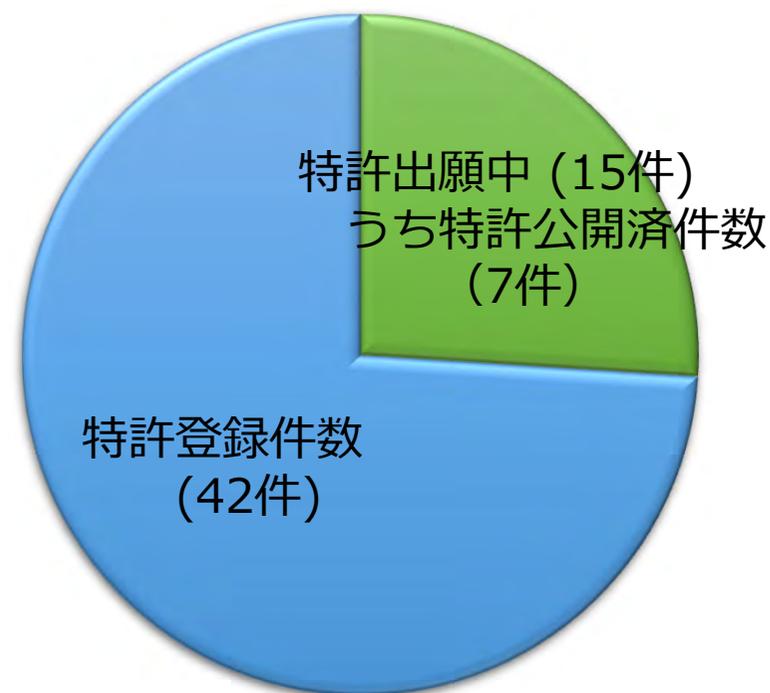
共同研究数

(総数35件 令和6年2月末現在)



特許権等保有状況

(総数57件 令和6年2月末現在)



令和6年度 研究課題の実施状況

動物衛生研究部門における令和5年度完了課題は27課題であった。
令和6年度に実施される課題は、継続課題と新規課題をあわせて105課題である。

研究課題の内訳（令和5年度完了課題、令和6年度実施課題）

	令和5年度	令和6年度		計
	完了課題	継続課題	新規課題	
交付金*1	6	8	10	24
農水省委託プロジェクト	0	34	0	34
競争的研究資金	7	27	10	44
(うち科研費・厚労科研費)	(6)	(22)	(10)	(38)
その他外部資金	13	6	0	19
受託研究	1	3	0	4
資金提供型共同研究	0	7	0	7
計	27	85	20	132

*1交付金は農研機構大課題研究費、NAROプロ経費を含む。

これらの他に、農水省委託プロジェクト、科学研究費等の競争的研究資金、その他外部資金に応募中の課題がある。

研究課題への取り組み（外部資金）



委託プロジェクト

農林水産省【安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業】

- ・CSFの新たな総合的防除技術の開発
- ・官民・国際連携によるASFワクチン開発の加速化
- ・新たな人獣共通感染症の発生に備えた事前リスク評価
- ・環境への抗菌剤・薬剤耐性菌の拡散量低減を目指したワンヘルス推進プロジェクト
- ・新たな感染症の出現に対してレジリエントな畜産業を実現するための家畜感染症対策技術の開発

農林水産省【戦略的国際共同研究推進委託事業のうち二国間国際共同研究事業】

- ・アフリカ豚熱の診断技術の検証と最適化ならびにベトナム国における浸潤状況の調査
- ・タイ国における牛の口蹄疫ウイルス持続感染状況に関する調査・研究

農林水産省【R4年度戦略的監視診断体制整備推進委託事業】

- （1）病性鑑定機能強化 （2）診断のための病原体の分析及び標準試薬等の製造・配付
- （3）口蹄疫診断体制強化 （4）野生動物感染症監視体制整備

農林水産省【令和4年度における家畜衛生対策事業（我が国のOIE認定施設活動支援事業）】

生研支援センター【ムーンショット型研究開発制度（ムーンショット型農林水産研究開発事業）】

- ・牛ルーメンマイクロバイーム完全制御によるメタン80%削減に向けた新たな家畜生産システムの実現

生研支援センター【イノベーション創出強化研究推進事業（応用研究ステージ）】

- ・抗病性指標の評価を活用した健全養豚実現体系の構築

内閣府【官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）「バイオ技術領域」】

- ・動物用医薬品をターゲットとしたバイオ製剤供給技術の開発

科学技術振興機構【令和4年度共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）・本格型移行】

- ・広島から世界最先端のバイオエコノミー社会を実現するBio×Digital Transformation(バイオDX)産学共創拠点

競争的資金制度

日本学術振興会【科学研究費助成事業】28件（代表16件、分担12件），【厚生労働科学研究費補助金】2件

その他外部資金

日本中央競馬会【日本中央競馬会畜産振興事業（再委託）】3件，民間研究助成事業 10件

令和5年度 動物衛生研究成果情報一覧

NO.	研究成果情報名	中課題略称	研究領域 グループ	分類
1	血液中のウイルス遺伝子の検出に適した核酸試料の簡易な調製法	越境性家畜感染症	越境性家畜感染症研究領域 海外病グループ	普及成果情報
2	養豚で問題となる多剤耐性病原性大腸菌に有効な抗菌剤	人獣共通感染症	人獣共通感染症研究領域 腸管病原菌グループ	研究成果情報
3	コリスチン耐性遺伝子mcr-1は養豚場でのコリスチン使用中止後も豚の大腸菌に残存する	人獣共通感染症	人獣共通感染症研究領域 腸管病原菌グループ	研究成果情報
4	豚への抗菌剤使用量は豚舎内のブドウ球菌属細菌の耐性保有率と相関する	人獣共通感染症	人獣共通感染症研究領域 腸管病原菌グループ	研究成果情報
5	天然化合物であるトリプタンスリンは低濃度で鶏腸管内のカンピロバクターを減らす	人獣共通感染症	人獣共通感染症研究領域 腸管病原菌グループ	研究成果情報
6	2021年シーズンに分離された高病原性鳥インフルエンザウイルスの鶏に対する病原性	人獣共通感染症	人獣共通感染症研究領域 新興ウイルスグループ	研究成果情報
7	2022年シーズン初期に国内の野鳥より検出した高病原性鳥インフルエンザウイルスの系統解析	人獣共通感染症	人獣共通感染症研究領域 新興ウイルスグループ	研究成果情報
8	口蹄疫ウイルスに感染したニホンイノシシは発見されにくい	越境性家畜感染症	越境性家畜感染症研究領域 海外病グループ	研究成果情報
9	豚熱ウイルス感染豚およびイノブタは長期間ウイルスを排泄する	越境性家畜感染症	越境性家畜感染症研究領域 海外病グループ	研究成果情報
10	感受性細胞での連続継代によるアフリカ豚熱ウイルス弱毒株の作出	越境性家畜感染症	越境性家畜感染症研究領域 海外病グループ	研究成果情報
11	感度および特異度に優れた新規アフリカ豚熱血清ELISA法の構築	越境性家畜感染症	越境性家畜感染症研究領域 海外病グループ	研究成果情報
12	国内の飼養牛の地域間移動を予測する移動確率分布	越境性家畜感染症	越境性家畜感染症研究領域 疫学・昆虫媒介感染症グループ	研究成果情報
13	国内の野生いのししは遺伝的に近縁なグループを地域ごとに構成している	越境性家畜感染症	越境性家畜感染症研究領域 疫学・昆虫媒介感染症グループ	研究成果情報

NO.	研究成果情報名	中課題略称	研究領域 グループ	分類
14	牛の異常産に関連するシャモンダウイルスのM分節は特有の末端配列を持つ	越境性家畜感染症	動物感染症研究領域 ウイルスグループ	研究成果情報
15	毛根を用いた牛ウイルス性下痢ウイルスのELISA検査法	動物感染症	動物感染症研究領域 ウイルスグループ	研究成果情報
16	牛伝染性リンパ腫ウイルスが発現する“タンパク質を作らないRNA”の新機能	動物感染症	動物感染症研究領域 ウイルスグループ	研究成果情報
17	2000-2020年に国内で発生した兔出血病の原因ウイルスの遺伝学的特徴	動物感染症	動物感染症研究領域 ウイルスグループ	研究成果情報
18	トリアデノウイルス由来組換えファイバータンパク質の鶏に対するワクチン効果	動物感染症	動物感染症研究領域 ウイルスグループ	研究成果情報
19	pol遺伝子を標的とした牛伝染性リンパ腫ウイルスの伝播リスク分類基準	動物感染症	動物感染症研究領域 ウイルスグループ	研究成果情報
20	牛伝染性リンパ腫ウイルスの病態進行に伴って発現上昇する宿主遺伝子	動物感染症	動物感染症研究領域 ウイルスグループ	研究成果情報
21	豚レンサ球菌血清型1型と14型および2型と1/2型のそれぞれを識別するPCR法の改良	動物感染症	越境性家畜感染症研究領域 疫学・昆虫媒介感染症グループ	研究成果情報
22	<i>Streptococcus pluranimalium</i> 同定用PCR法	動物感染症	動物感染症研究領域 細菌グループ	研究成果情報
23	日本の養豚汚水処理過程における抗菌剤の残存と環境排出リスク	衛生管理	衛生管理研究領域 衛生管理グループ	研究成果情報
24	日本の豚ふん堆肥における抗菌剤残留の特徴	衛生管理	衛生管理研究領域 衛生管理グループ	研究成果情報
25	スズメは近年アジア諸国で流行する強毒型ニューカッスル病ウイルスに感染する	衛生管理	衛生管理研究領域 衛生管理グループ	研究成果情報
26	家禽・野鳥の組織標本を用いたTおよびBリンパ球の免疫組織化学的同定	衛生管理	衛生管理研究領域 衛生管理グループ	研究成果情報

令和5年 病性鑑定実施状況

(1) 口蹄疫疑い事例の写真判定

	検査件数	検査頭数	検査結果	
			疑わしい事例	陰性頭数
令和5年1月1日～12月31日	0	0	0	0

(2) 口蹄疫の病性鑑定

※()は緊急病鑑対応数

	検査件数	検査頭数	検査結果	
			陽性頭数	陰性頭数
令和5年1月1日～12月31日	3 (1)	15 (6)	0	15 (6)

「口蹄疫に関する特定家畜伝染病防疫指針」（令和2年7月1日、令和3年10月1日一部変更）

(3) 高病原性鳥インフルエンザの病性鑑定

※()は緊急病鑑対応数

	検査件数	検査例数	検査結果件数	
			高病原性鳥インフルエンザ	陰性
令和5年1月1日～12月31日	123 (44)	2,441 (1,174)	120 (42)	3 (2)

「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」（令和2年7月1日、令和3年10月1日一部変更）

(4) 豚熱の病性鑑定

※()は緊急病鑑対応数

	検査対象	検査件数	検査頭数	検査結果	
				陽性頭数	陰性頭数
令和5年1月1日～12月31日	豚	5 (4)	244 (136)	4 (4)	1 (0)
	イノシシ	3 (2)	24 (6)	3 (2)	0

「豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針」（令和2年7月1日、令和4年12月23日一部変更、令和5年11月15日留意事項一部改正）

(5) アフリカ豚熱の病性鑑定

	検査件数	検査例数	検査結果	
			陽性例数	陰性例数
令和5年1月1日～12月31日	1	3	0	3

「アフリカ豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針」

(令和2年7月1日、令和3年10月1日一部変更、令和5年11月15日留意事項一部改正)

(6) 経口ワクチン散布地域における野生イノシシの豚熱サーベイランス

	検査件数	検査頭数	検査結果	
			陽性頭数	陰性頭数
令和5年1月1日～12月31日	5	5	5	0

「豚熱経口ワクチンの野外散布実施に係る指針」(平成31年3月5日、令和5年3月31日改訂)

(7) 豚熱感染野生イノシシの疫学動向調査

	検査件数	検査例数
令和5年1月1日～12月31日	24	2706

(8) 伝達性海綿状脳症(TSE)サーベイランス

	検査件数	検査頭数	検査結果	
			陽性頭数	陰性頭数
令和5年1月1日～12月31日	425	657	1	656

「伝達性海綿状脳症(TSE)検査対応マニュアル」(令和4年4月1日一部改正)

(9) 野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係るサーベイランス

	検査件数	検査例数	検査結果	
			陽性件数	陰性例数
令和5年1月1日～12月31日	17	88	88*	0

- ・「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」
(環境省自然環境局：令和5年8月改定、令和5年11月一部修正)
- ・自治体による独自サーベイランス

* 高病原性鳥インフルエンザ(H5N1亜型)

(10) 一般病性鑑定集計表

ア. つくば・研究拠点別病性鑑定実施状況

単位：例数（件数）

区分	つくば		小平海外病 研究拠点		札幌研究拠点		鹿児島研究拠点		合計	
	例数	（件数）	例数	（件数）	例数	（件数）	例数	（件数）	例数	（件数）
牛	587	(78)	0	(0)	0	(0)	64	(17)	651	(95)
豚・イノシシ	179	(19)	0	(0)	2	(1)	6	(3)	187	(23)
馬	11	(5)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	11	(5)
めん羊・山羊	36	(5)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	36	(5)
鹿	12	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	12	(1)
家きん	52	(20)	0	(0)	0	(0)	7	(2)	59	(22)
その他	96	(11)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	96	(11)
計	973	(139)	0	(0)	2	(1)	77	(22)	1,052	(162)

イ. 過去5年間の一般病性鑑定の推移

単位：例数（件数）

区分	令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年	
牛	1,068	(104)	1,192	(102)	833	(82)	942	(68)	651	(95)
豚・イシ	687	(56)	1,567	(66)	938	(35)	416	(22)	187	(23)
馬	20	(1)	51	(1)	12	(2)	0	(0)	11	(5)
めん羊・山羊	92	(7)	52	(6)	31	(9)	46	(8)	36	(5)
鹿	0	(0)	0	(0)	39	(2)	0	(0)	12	(1)
家きん	94	(11)	45	(12)	104	(12)	119	(22)	59	(22)
その他	100	(16)	60	(16)	45	(10)	18	(5)	96	(11)
計	2,061	(195)	2,967	(203)	2,002	(152)	1,541	(125)	1,052	(162)

【概要】

対象動物	主な対象疾病	件数					例数				
		本所	小平	札幌	鹿児島	合計	本所	小平	札幌	鹿児島	合計
一般病性鑑定											
牛	牛ウイルス性下痢症、牛アデノウイルス感染症、アルボウイルス感染症、ディアギュラウイルス感染症、大腸菌症、サルモネラ症、牛パストツレラ症、流行性出血病、クロストリジウム感染症、ヨーネ病、牛結核感染症、ストレプトコッカス感染症、マイコプラズマ感染症、中毒	78			17	95	587			64	651
豚・イノシシ	豚繁殖・呼吸障害症候群、豚インフルエンザ、サルモネラ症、ストレプトコッカス感染症、アクチノバチルス感染症	19		1	3	23	179		2	6	187
馬	ノカルジア感染症、真菌感染症、大腸菌症	5				5	11				11
めん羊・山羊	ブルータング、ヨーネ病	5				5	36				36
鹿	ヨーネ病	1				1	12				12
家きん	鶏伝染性気管支炎、伝染性ファブリキウス嚢病、マイコプラズマ感染症、エンテロウイルス感染症、大腸菌症、マレック病	20			2	22	52			7	59
その他	アフリカ豚熱、ヨーネ病、マイコプラズマ感染症	11				11	96				96
		139	0	1	22	162	973	0	2	77	1052
越境性動物疾病の病性鑑定											
牛	口蹄疫の病性鑑定		3			3		15			15
牛	BSE緊急病性鑑定					0					0
豚・いのしし	CSFの病性鑑定	29	8			37	2721	268			2989
豚・いのしし	ASFの病性鑑定		1			1		3			3
めん羊・山羊	TSE緊急病性鑑定					0					0
めん羊・山羊 鹿等	TSEのサーベイランス	425				425	657				657
家きん	鳥インフルエンザの病性鑑定	123				123	2441				2441
野鳥	鳥インフルエンザのサーベイランス (野鳥糞便、死亡野鳥)	17				17	88				88
		594	12	0	0	606	5907	286	0	0	6193
総 計		733	12	1	22	768	6880	286	2	77	7245

鳥インフルエンザの発生状況

-鳥インフルエンザは2004年に79年ぶりに発生-



	発生が確認された都道府県	発生農場数	亜型
2004年1月～3月	山口、大分、京都 (3～4月京都・大阪 ハシブトガラス)	4	H5N1
2005年6月～12月*	茨城、埼玉	41	H5N2
2007年1月～2月	宮崎、岡山 (1月熊本 クマタカ)	4	H5N1
2008年4月～5月	秋田、青森、北海道 (野鳥でのみ検出)	—	H5N1
2009年2月～3月*	愛知 (3例ウイルス分離、4例抗体陽性)	7	H7N6
2010年11月～2011年3月	島根、宮崎、愛知、三重、大分、鹿児島、奈良、和歌山、千葉	24	H5N1
2014年4月	熊本	1	H5N8
2014年12月～2015年1月	宮崎、岡山、山口、佐賀 (11月～1月鹿児島、千葉 野鳥)	5	H5N8
2016年11月～2017年3月	青森、新潟、北海道、宮崎、熊本、岐阜、佐賀、宮城、千葉	12	H5N6
2018年1月	香川	1	H5N6
2020年11月～2021年3月	18県	52	H5N8
2021年11月～2022年5月	12道県	2	H5N8
		23	H5N1
2022年10月～2023年5月	26道県、1,771万羽以上を処分	84	H5N1**
2023年11月25日～ 2024年3月12日	9県 (佐賀、茨城、埼玉、鹿児島、群馬、岐阜、山口、香川、広島)	10	H5N1 H5N6

*低病原性鳥インフルエンザ(LPAI)、**60例目大分のみH5N2

(予防液)

製 品 名	単 位	金額 (円)
牛疫組織培養予防液 (国家備蓄用)	50mL (50頭分)	無償

(診断液)

製 品 名	単 位	金額 (円)
牛カンピロバクター病診断用蛍光標識抗体	1mL (33検体分)	8,310
炭疽沈降素血清	2mL (0.4×5A) (4検体分/A)	1,740
ブルセラ症診断用菌液	20mL (80検体分)	6,090
ブルセラ補体結合反応用可溶性抗原	5mL (500検体分)	2,680
ヨーニン	5mL (50頭分)	1,890
ヨーネ病補体結合反応用抗原	1mL (100検体分)	22,770
ひな白痢急速診断用菌液	20mL (666検体分)	3,150
馬パラチフス急速診断用菌液	5mL (25検体分)	6,620

- ✓ 我が国では1920年代以降発生はなく、2012年にOIE（現WOAH）/FAOが天然痘に次いで世界で2番目に地球上から撲滅宣言をした疾病
- 本製品は家兎化ワクチンとして、世界で初めて我が国で開発
- 家兎化・鶏胎化ワクチンの製造用株（LA赤穂株）をVero細胞で増殖させる手法で製造（常時10万頭分のワクチンを国内備蓄）

- ✓ 平成27年5月 OIE（現WOAH）・FAOより牛疫ウイルス所持施設として認定
 - ・診断・研究施設 海外病研究拠点（小平）
 - ・ワクチン製造・保管施設（つくば）
- ✓ 平成28年5月 日本の牛疫ワクチン株（LA-AKO vaccine strain）が、OIEマニュアルに掲載され、世界標準株に
- ✓ 平成30年度よりFAOから委託され、海外向け備蓄を開始



令和5年度 家畜衛生講習会等実施状況

家畜衛生講習会

家畜衛生講習会実施要領（平成19年4月2日付け18消安第13860号）

講習会名	開催場所	定員	参加人数	開催期間	講習内容	
基本講習会	つくば	50	50	5.15 ~ 5.26	畜産の動向 家畜衛生事情 基礎学理	
総合講習会	つくば	50	44	8.2 ~ 8.4	畜産の動向 家畜衛生事情 最新学理	
特殊講習会	つくば、 研究拠点	35	32		5.10 ~ 10.30	監視伝染病を含めた家畜疾病の 診断技術等の学理及び技術実習
1) 病性鑑定			つくば	拠点		
ウイルス			8	5		
細菌			7	1		
病理 生化学			3 4	4 0		
2) 鶏疾病	つくば	48	42	5.29 ~ 6.6	監視伝染病を含めた鶏の疾病に 関する学理及び技術実習	
3) 牛疾病	つくば	50	46	6.7 ~ 6.16	監視伝染病を含めた牛の疾病に 関する学理及び技術実習	
4) 豚疾病	つくば	50	44	6.21 ~ 6.30	監視伝染病を含めた豚の疾病に 関する学理及び技術実習	
5) 海外悪性 伝染病	つくば	50	49	8.22 ~ 8.25	監視伝染病を含めた海外悪性 伝染病の防疫対策に必要な 学理及び演習	
6) 獣医疫学	つくば	30	28	7.10 ~ 7.14	監視伝染病を含めた家畜疾病の 防疫対策に必要な獣医疫学の 学理及び演習	

家畜衛生研修会（病性鑑定）

部 門	定 員	参加人数	開 催 期 間	研 修 内 容
細 菌	5 0	4 6	10. 3 ~ 10. 6	家畜伝染病の診断技術の向上等を目的に 専門別の最新の学理及び診断技術の習得
病 理	5 0	4 6	10.10 ~ 10.13	
生 化 学	5 0	2 9	10.17 ~ 10.20	
ウイルス	6 0	5 1	10.24 ~ 10.27	

令和5年度 研究員・研修員受入状況

(研究員)

1. 国内

制 度	人 数
外部研究員	0
契約研究員	11
農研機構特別研究員	2
計	13

2. 海外

受入実績なし。

(研修員)

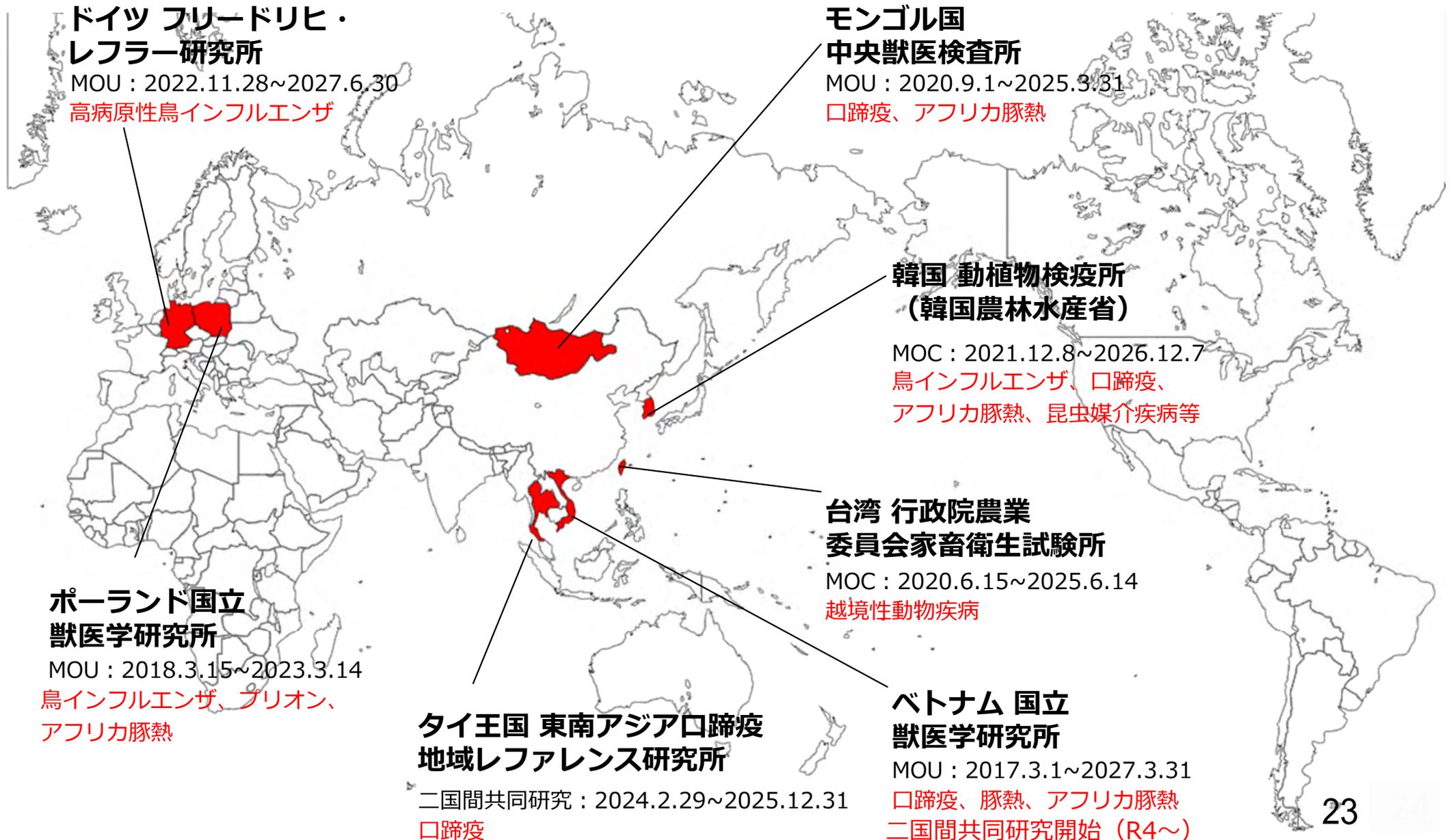
1. 国内 (個別研修)

依 頼 元	人 数
国・独法等	6
県の機関等	6
大 学	8
企 業	3
計	23

2. 海外

プロジェクト名	依 頼 元	国 名	人 数
2023年度課題別研修 「家畜疾病診断基礎技術向上」	(独)国際協力機構 筑波センター	ナミビア	(1)
		パラグアイ	(1)
		フィリピン	(1)
		ウズベキスタン	(1)
		ザンビア	(1)
個別研修		タイ	3 (3)
	計		8

(MOU 7 件、共同研究2件)



ネットワーク

GARA加盟研究機関	国際アフリカ豚熱研究アライアンス	ワクチン開発を含むアフリカ豚熱の実行可能な撲滅に向けた防除やコントロールに関する科学的知見や技術の集積
STAR-IDAZ	動物疾病に関する国際研究コンソーシアム	疾病のコントロールツールと戦略の提供を加速するための動物衛生研究の国際的な調整。

エキスパートの配置

1) Specialists Commissions

- ・ OIE Biological Standards Commission (OIE生物基準委員会) 委員

2) レファレンスラボラトリー

- ・ BSE
- ・ Classical Swine Fever
- ・ Swine Influenza
- ・ Rinderpest

3) コンタクトパーソン

- ・ FAO-OIE Rinderpest Holding Facilities, Category A and B

農研機構動物衛生研究部門は、2010年5月に動物医薬品検査所と共同で「アジアにおける家畜疾病の診断及び防疫と動物用医薬品評価」を協力分野とするコラボレーティングセンターに認定されました。

1. 協力分野内における研究拠点や専門家としての活動、診断法の標準化及び普及活動等

○疫学、サーベイランス、リスク評価、モデリング

国際機関等への参加 14件

- ① Meeting of the WOAH Biological Standards Commission, 2023年2月4-11日
- ② The 3rd Joint Meeting of Veterinary Science in East Asia (Taiwan), 2023年4月30日-5月5日
- ③ Sampling of wastewater and environmental water samples for Antimicrobial Resistance (India), 2023年6-18日
- ④ Asian Pig Veterinary Society Congress 2023, 2023年7月29日-8月6日
- ⑤ 55th Joint Panel Meeting on Toxic Microorganisms, United States-Japan Cooperative Program in Natural Resources (UJNR), 2023年8月6-13日
- ⑥ Project for improvement of veterinary and animal health services in the West Bank (Palestine), 2023年9月10日-10月9日
- ⑦ Meeting of the WOAH Biological Standards Commission, 2023年9月2-9日

1. 協力分野内における研究拠点や専門家としての活動、診断法の標準化及び普及活動等

- ⑧ The 1st Asia-Pacific Policy Roundtable on Wildlife Disease, 2023年10月9-13日
- ⑨ The 5th WOAHA Regional Workshop on Swine Disease Control in Asia in Beijing, China, 2023年11月20-23日
- ⑩ 2023 International Symposium for Classical Swine Fever and Other Important Swine Infectious Diseases, 2023年11月26-30日
- ⑪ Global African Swine Fever Research Alliance (GARA) の GARA's Gap Analysis Workshop, 2023年12月4-8日
- ⑫ Sampling of wastewater and environmental water samples for Antimicrobial Resistance (India), 2023年12月12-20日
- ⑬ The 5th Veterinary Technology & Nursing International Seminar (Thailand), 2023年12月12-15日
- ⑭ Pandemic preparedness: WOAHA workshop on risk-based analysis of spillover events in wildlife in Japan, 2023年12月13-14日

〒305-0856 茨城県つくば市観音台3-1-5
 代表電話：029-838-7713
 FAX：029-838-7907 (研究推進部研究推進室)
 URL：<https://www.naro.go.jp/laboratory/niah/index.html>

所長	7701	疾病対策部長	7715
研究推進部長	7704	行政連携室長	7707
研究推進室長	7705	生物学的製剤製造室長	7848
室長補佐	8341	病性鑑定室長	7955
推進チーム長	7895	バイオセーフティ管理役	7722
渉外チーム長	7937	海外病バイオセーフティ管理役 (小平)	
		鹿児島調整役 (鹿児島)	
		人獣共通感染症研究領域長	7738
		越境性家畜感染症研究領域長 (小平)	
		動物感染症研究領域長	7841
		衛生管理研究領域長	7772

【事業場】

小平海外病研究拠点	042-321-1441
FAX	042-325-5122
札幌研究拠点	011-851-5226
FAX	011-853-0767
鹿児島研究拠点	099-268-2078
FAX	099-268-3088